氏名	小 塚 彰
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	博甲第 715 号
学位授与の日付	昭和 63 年 3 月 31 日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学(二)専攻 （学位規則第 5 条第 1 項該当）
学位論文題目	**肺非小細胞癌の化学療法に関する研究** **第 1 編 進展期肺非小細胞癌における Ifosfamide・Cisplatin・Vindesine併用療法の検討** **第 2 編 肺非小細胞癌化学療法例の予後因子についての検討**
論文審査委員	教授 太田善介　教授 辻 孝夫　教授 赤木忠厚

学位論文内容の要旨

第 1 編：進展期肺非小細胞癌26例に対して，Ifosfamide・Cisplatin・Vindesine 併用療法を施行した。全奏効率69%，効果持続期間中央値30週であった。NCないしPD例に比し，CRないしPR例に有意な生存期間の延長が認められた。主たる副作用は血液毒性であったが，その回復は比較的速やかであり，重篤な副作用も認められなかった。末梢神経障害がかなり高率に出現し，総投与量を規制する因子として重要であった。本併用療法は肺非小細胞癌に対し極めて有効な治療法と思われ，さらなる検討に値するものと思われた。

第 2 編：進展期肺非小細胞癌化学療法施行例91例に関して予後因子の解析を行なった。生存率の有意差検定では，臨床病期，治療効果，血沈，血清アルブミン，アルカリフォスファターゼの 5 因子が予後因子として重要であった。予後因子に関する重回帰分析では臨床病期，治療効果，リンパ球数，血清アルブミン，アルカリフォスファターゼの順に予後との相関が高かった。切除不能例であっても，更に有効性の高い化学療法を，宿主条件が良好な時期に適切に投与することにより，肺非小細胞癌の生存期間の延長も期待できるものと思われた。

論文審査の結果の要旨

本研究は第 1 編では進展期肺非小細胞癌26例に対して，Ifosfamide・Cisplatin・Vin-

desine併用療法を施行し検討したもので，その全奏効率69%，効果持続期間中央値30週で，本併用療法は肺非小細胞癌に対し極めて有効な治療法であることを示した。第２編では進展期肺非小細胞癌化学療法施行例91例に関して予後因子の解析を行った結果生存率の優意差検定では，臨床病期，治療効果，血沈，血清アルブミン，アルカリフォスファターゼの５因子が予後因子として重要であり，切除不能例であっても，更に有効性の高い化学療法を，宿主条件が良効な時期に適切に投与することにより，肺非小細胞癌の生存期間の延長も期待できるものと思われた。以上は肺非小細胞癌の化学療法に関する重要な業績と認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。